
慈 恵



平成29年 No.61



冬

宗教法人 慈 恵 院 付属 多摩犬猫霊園

鑑賞



蘭自画賛
其香清遠

雪堂

四君子では竹も描かれたようだが、今日見られるのはこういった蘭のみである。この筆法は、入木道の張堂龍禅師の、それによったものと思う。が、晩年住まわれた越生の寺の裏山には、こんな蘭も生えていた。

賛の書の、清澄さと伸びやかさからして、七十代前半の作に相違ない。

「禅画報」より

横山天啓

書道の本源を求めて、八十余年の生涯を書と禅に捧げた横山天啓翁（雪堂、昭和四十一年八十四歳で死去）は、書における墨気と境涯を重んじ、筆禅道を提唱、実践した。世に媚びることなく清貧の中で道を求めた翁の姿は“書仙”の趣があった。

妖は徳に勝たず

明治元年、泰龍は妙心寺本山と師匠雪潭の命で伊深の正眼僧堂に入寺した。時あたかも維新直後で、西洋の文化が流入し、社会では排仏の動きが沸騰していたころである。多くの僧侶たちは狼狽してなすところを知らないふうであった。

そんな世間の動きを少しも顧みず、泰龍は数十人の雲水と枯淡をなめて、摂心に明け暮れていた。ある日、語つていった。

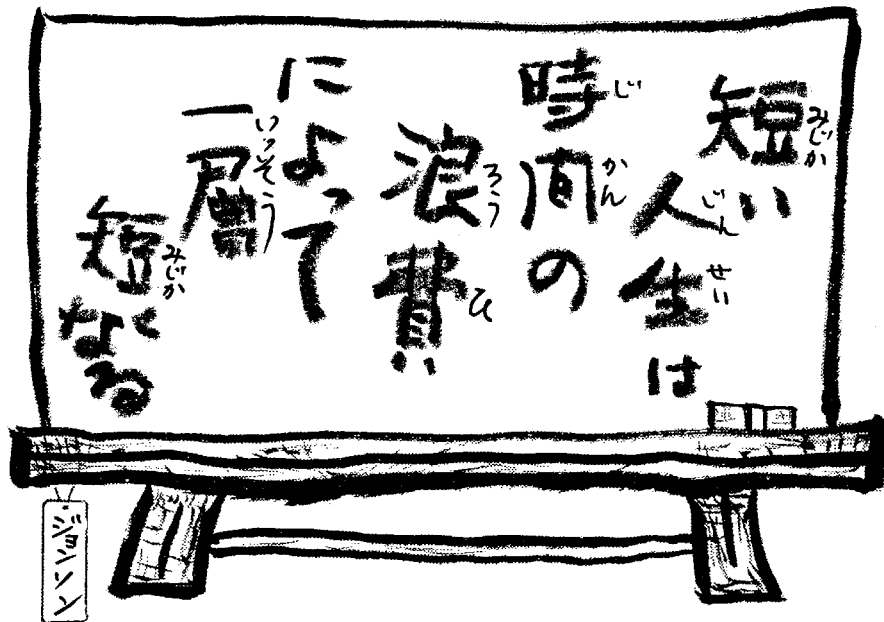
「邪は正に適さず、妖は徳に勝たずだ。わしらがここで特段の奮発をせねば宗風はまったく地に墜ちてしまおうぞ」

果たして正眼僧侶の宗規は大いにふるい、門庭は屹立とし多衆が集まったのである。

泰龍文彙 (一八二七〜一八八〇)

臨濟宗。尾張の人。十七歳の時、慈雲寺の松蔭について出家した。のち雪潭に参じること十九年、ついにその印記を得た。紀伊の大泰寺に入ったのち伊深正眼寺に住し、雲納を接得した。

掲示板





せつちゃん、

ありがとう

小平市 東^{あずま}たかえ(58)

17年11カ月。18才を待たずに君は旅立ちましたね。私にとつてパートナーであり友であり1人息子。共に生きてきました。18年前の8月15日、初めて会った(拾った)時から夢中になりました。手の平にのるくらい小さい君は本当に本当に愛しいかわいい存在でした。私の好きな「蛍の墓」のせつちゃんのように素直な子になって欲しいと「せつちゃん」と名付けました。期待通りとはい

かないけど、ママだけを頼りに生きてくれましたね。そして、色々な事がありました。10年間、夜中に外を散歩してくる君に、2〜3時に起こされ、朝5〜6時に帰って又起こされ、私も今より若かったからできたことと思います。ケガもたくさんありましたね。最大は4階の建物から飛び降り、前足2本を粉砕骨折したことでした。1才半という若さもあり、奇跡的に回復して元通りにほぼ近いまでになりました。ケージで過ごした1ヶ月間は共につらい日々でしたね。夜中の散歩で知らないアパートの床下に入り閉じ込められたこともありましたね。泣きながら探し回ったことを今でも思いだします。やっぱり男子です、やんちゃさん

でした。そんな君が急に食わなくなり、水も飲めなくなつてから、5日目の朝に旅立ちました。それから1年。早いのか遅いのかわからない砂をかむような日々が続いています。思い返せば最後の半年くらい、いつもママの顔といわず首まで枕の横でなめてくれましたね。うれしいやら痛いやらで顔をかくしたりして、君としてはママにお別れをしてくれていたのかもしれないのに。今も君を抱きしめたい思いでいっぱいです。でも、本当に楽しい日々でした。

君は虹の橋のたもとで待っているという話を聞いたことがあります。もうしばらくはかかるけど、ママが行くまで待っていてね。そして一緒に橋を渡って行けると思うとマ

マは何も恐れず君の所に行くことができます。せつちゃん。ありがとうね。

合同慰霊碑に

十三回忌の祈り

小平市 高島 順風(87)
ペンネーム

娘がせがんで女房を口説き落とし 金目の真白なペルシャの猫が入り込んだ 名は、何でも外国の人氣漫画主人公にならつて タンタンと付けられた

こんな時 わたしに名古屋への転勤辞令が出てあわただしい準備で数日間を過ごすことになつた ところが母娘は やれ大きなゲージがいるミルクだ牛乳だ なんだかんだと まるで赤ん坊がきたような騒ぎ こちらの転出証明など「ご自分でされては」の処遇のされ方 本来 猫嫌いが

仕方なく承服したのに
我慢 我慢の心境

さて 生まれて初めて
の単身赴任なので 東京
駅で恥ずかしながら、バ
ンザイで見送られた

旦那よりは子猫の方が大
事なのかね！と 幾分
不満ではあったが 反面
解放感もあった

数ヶ月後 母娘^{おやこ}がタン
タンをバスケットに入れ
新幹線でやってきた 夫
婦 娘 猫一匹の心に残
る生活気分を味わうこと
が出来た

それから しばらくし
て帰宅して驚いた 美声
で鳴く赤力ナリヤが タ
ンタンに毎日飛びつかれ
ストレスとシヨックで
落ちたことそれよりも
やっと建てた床の間の床
柱が タンタンの爪トギ
でキズだらけになってい
たこと 勿論 爪トギ板

は用意されているのに
何故か床柱がよかった
のか？ それにレースの

カーテンの裾に 長毛の
白い毛が沢山付着してい
て ガムテープでも取り
きれない また 長毛の
猫は 犬のように風呂場

で家人がシャンプー出来な
く その上毛ダマの心配
もあって それらしい店
で爪切りをして綺麗にす

るとのこと 洋猫は気性
が荒いので 早早と去勢
してあると云うが 日本
猫のようにゴロゴロ足に
まつわるような コミュ

ニケーションは少ない
だが家人が留守をして
帰宅したとき 猫に寂し
かったねとか声を掛けて
ゲージの扉を早く開けて
やらないと ジュータン
にオシッコをして拗ねた
ようだ
名古屋から東京に転居

間もなく停年退職をし
た 猫が家族の一員とな
って三年が経過していた

転勤先からタンタンの消
息も交信したので 何時
か犬猫派になつていた
従つて家人同様の接触を
するので 猫もそれなり

の反応をしてくれた
しかし 12〜13才ぐら
いから腎臓の数値等が悪
くなつて 動物病院通いが

多くなり まさに老老介
護であつた
たくさんさんの喜怒哀楽を
教えてくれたタンタンは
十八才と六ヶ月でこの世
を去つた

今日は タンタンの十三
回忌 今は合同慰霊碑
になかまと眠っている
ため 老夫婦で線香と花
を添え冥福を祈つた
老妻が云つた 猫嫌い
なああなたが大事にして
くれたが もうわたし達の

年令では動物を飼うこと
は無理ですね せめてタ
ンタンからいろんなこと
を学んだことで 終活の
想い出としましょう。

大きな背中

東久留米市

片岡 由紀枝(51)

私の誕生日に弟が亀の赤
ちゃんをプレゼントして
くれました。初め、五百
円玉位の大きさに、愛く
るしい目と体の割に太い
手足で元気に動き回り、
すくすくと成長してい
きました。

爬虫類全部がそうです
が、陸亀もとてもデリケ
ートで、自分で体を暖め
る事ができず、温度管理
や、食事、日光浴と全てが
勉強で、大変でしたが、
成長に喜びを感じていま
した。